

# 魚類



## (1) レッドリスト種（魚類）の概要

レッドリスト種に選定した魚類は、11種でした。表4-8にカテゴリーごとの種数・概要を示します。

レッドリスト種に選定した種は、河川中上流域の冷水を好む種や湧水地、あるいは湧水を水源とする小河川に生息する種に多い傾向がみられました。

表4-8 魚類レッドリスト種の概要

レッドリストカテゴリー	種数	選定した種の概要
絶滅 (EX)	0	・絶滅に該当する種は選定されませんでした。
野生絶滅 (EW)	3	・海から遡上するニホンウナギ、アユ、サケを選定しました。
絶滅危惧 I 類 (CR+EN)	1	・池沼や小川、水路に生息するミナミメダカを選定しました。
絶滅危惧 II 類 (VU)	2	・主に湧水地に生息するホトケドジョウと河川の平瀬や早瀬に生息するアカザを選定しました。
準絶滅危惧 (NT)	4	・冷水を好むヤマメやニッコウイワナ、カジカ等を選定しました。
情報不足 (DD)	1	・水田や水路に生息するドジョウを選定しました。

## (2) 危惧される減少要因

レッドリスト種の絶滅・減少要因としては、河川開発や水質汚濁による生息環境の減少や悪化等が挙げられます。

また、ダム等の建設によって河川が上下流に分断された結果、海と河川を行き来するニホンウナギやサケ、アユは野生では絶滅してしまいました。

情報不足に選定されたドジョウは、最近、国内の他地域や外来のドジョウが持ち込まれ、それらとの交雑が懸念されています。

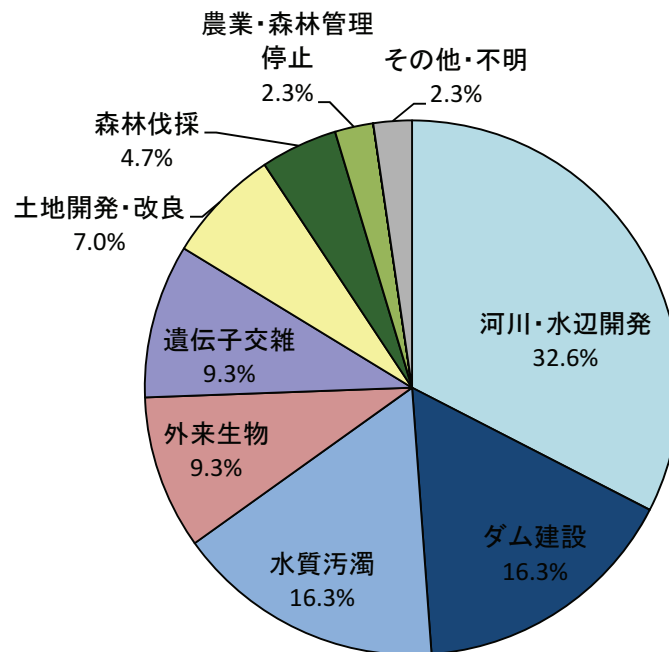


図 4-6 魚類レッドリスト種の減少要因の割合

## ニホンウナギ (ウナギ目 ウナギ科)

*Anguilla japonica*



生息環境



河川  
湖沼  
川  
池  
沼

安曇野市：野生絶滅

長野県：野生絶滅

EW

EW

環境省：絶滅危惧IB類

EN

●**特徴**：最大で全長約100cm。細長い体型で、体色は背側が暗色、腹部は黄白色です。背びれと尻びれが尾ひれにつながります。産卵場はフィリピン沖で、日本沿岸域にたどり着いた幼魚が河川で成長します。

●**生息環境**：河川中下流域や湖や池沼に生息します。夜行性であり、日中は石の隙間や土手の穴、泥の中などに潜っています。

●**国内の分布**：ほぼ日本全国に分布します。県内では放流魚と考えられる個体が確認されるのみです。

●**市内の分布**：かつては海から遡上した個体が生息していたと考えられますが、現在は犀川で放流魚が確認されるのみです。

●**減少要因**：河川中下流域に設置されたダムにより、海と河川との行き来が困難になったため野生個体群は絶滅したと考えられます。

参考文献 No.

4, 19, 59

## アユ (サケ目 アユ科)

*Plecoglossus altivelis altivelis*



生息環境



河川

安曇野市：野生絶滅

長野県：野生絶滅

EW

EW

環境省：—

—

●**特徴**：全長10~30cm。背部がオリーブ色、腹部は銀白色で、背びれ後方に脂びれがあります。海と川を行き来する回遊魚で、秋に河川下流域で生まれた仔魚は海に下りたあと翌春に河川に戻ってきます。餌の確保のため、なわばりを形成し、主に藻類を食べます。

●**生息環境**：河川中流域に生息します。なわばりを早瀬や平瀬に形成します。

●**国内の分布**：ほぼ日本全国に分布します。県内では全域の河川に放流されています。

●**市内の分布**：かつては海から遡上した個体が生息していたと考えられますが、現在は犀川で放流魚が確認されるのみです。

●**減少要因**：河川中下流域に設置されたダムにより、海と河川との行き来が困難になったため野生個体群は絶滅したと考えられます。

参考文献 No.

4, 15, 19, 30, 59

## サケ (サケ目 サケ科)

*Oncorhynchus keta*



生息環境



河川

安曇野市：野生絶滅

長野県：野生絶滅

EW

EW

環境省：—

—

●**特徴**：全長60~70cm。背部は暗青色、腹部は銀白色で脂びれがあります。成熟した雄は下あごが発達します。河川中上流域で産卵し、孵化した稚魚は海に降下し、成長した親魚は再び産卵のため生まれた河川に戻ってきます。

●**生息環境**：海から河川に上がった親魚は、河川の流れのゆるやかな平瀬や湧水のある礫底に産卵します。

●**国内の分布**：日本海側は九州以北、太平洋側は利根川以北に分布します。県内では千曲川水系で遡上した放流魚が確認されるのみです。

●**市内の分布**：明科は、犀川中下流部にダムが建設される昭和初期ごろまで県内有数のサケ漁場でした。現在は遡上する個体はなく、サケの漁もおこなわれていません。

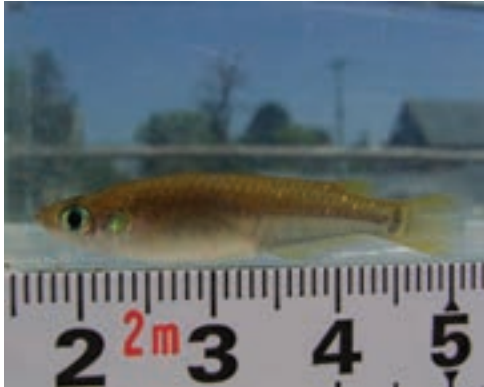
●**減少要因**：河川中下流域に設置されたダムにより、海と河川との行き来が困難になったため野生個体群は絶滅したと考えられます。

参考文献 No.

23

### ミナミメダカ (ダツ目 メダカ科)

*Oryzias latipes latipes*



生息環境



河川  
湖沼  
農水路  
湧水地

安曇野市：絶滅危惧Ⅰ類

長野県：絶滅危惧ⅠB類

EN

CR+EN

環境省：絶滅危惧Ⅱ類

VU

●特徴：全長約4cm。眼が大きく、口は小さく上向き、背びれは体の後方にあります。近年、遺伝的調査により国内のメダカはキタノメダカとミナミメダカの2種にわけられました。

●生息環境：池沼や流れのゆるやかな細流、用水路などにも生息します。水草などに産卵します。

●国内の分布：主に本州の太平洋側と九州に分布します。県内では北部、中部、南部に分布します。

●市内の分布：犀川、高瀬川、穂高川の三川合流周辺などに生息しています。かつては明科に多く生息していたとされていますが、現在はほとんどみられません。

●減少要因：圃場整備、水路のコンクリート化などによる環境悪化や、農薬、生活排水による水質汚濁が考えられます。また、飼育個体の逸出による交雑も懸念されます。

参考文献 No.

-

### ホトケドジョウ (コイ目 ドジョウ科)

*Lefua echigonia*



生息環境



河川  
湖沼  
農水路  
湧水地

安曇野市：絶滅危惧Ⅱ類

長野県：絶滅危惧Ⅱ類

VU

VU

環境省：絶滅危惧ⅠB類

EN

●特徴：全長6~8cm。ドジョウに比べると体が太く短くみえます。4対の口ひげをもち、体側中央から背部に黒っぽい小斑点があります。

●生息環境：湧水を水源とする細流や、湿原や用水路に生息します。水草などに産卵します。

●国内の分布：本州（東北から近畿地方）に分布します。県内では主に犀川水系と千曲川水系に分布します。

●市内の分布：犀川河川敷の細流、放棄されたワサビ田、湧水湿地など、湧水が流れる場所を中心に生息しています。

●減少要因：圃場整備、水路のコンクリート化、乾田化による環境悪化や、農薬、生活排水による水質汚濁が考えられます。

参考文献 No.

4, 59, 60

### アカザ (ナマズ目 アカザ科)

*Liobagrus reinii*



生息環境



河川

安曇野市：絶滅危惧Ⅱ類

長野県：準絶滅危惧

NT

VU

環境省：絶滅危惧Ⅱ類

VU

●特徴：全長約10cm。体は赤褐色で腹面は淡色です。背びれと胸びれの先端に鋭いトゲがあり、刺されると激しい痛みがあります。体の色と刺されると痛いということからサソリという異名があります。

●生息環境：河川上中流域の平瀬や早瀬の石の隙間を中心に生息します。石の下に産卵します。

●国内の分布：日本固有種で、秋田県、宮城県以南の本州から九州に分布します。

●市内の分布：犀川本流や支流の会田川などに生息しています。

●減少要因：河川改修、砂礫採取などによる環境悪化や水質汚濁が考えられます。

参考文献 No.

4, 19, 55, 59

**スナヤツメ** (ヤツメウナギ目 ヤツメウナギ科)

*Lethenteron reissneri*



生息環境



河川  
用水路  
湧水地

安曇野市：準絶滅危惧
NT

長野県：絶滅危惧Ⅱ類	VU
環境省：絶滅危惧Ⅱ類	VU

●**特徴**：全長約 20cm。細長い体型をしています。口は吸盤状であごをもちません。眼の後方に7つのエラあながあります。幼生（アンモシーテス幼生）は成魚とは姿が大きく異なり、眼がなく、尾びれが透明です。遺伝的に分化した北方種と南方種がいます。

●**生息環境**：河川中流域や細流及び用水路に生息し、砂礫底に産卵します。湧水を水源とする冷水を好みます。

●**国内の分布**：北海道から九州に分布します。県内では、姫川は北方種、天竜川・千曲川水系では主に南方種が分布します。

●**市内の分布**：犀川河川敷の湧水水路を中心に生息するほか、穂高川、万水川の湧水域にも生息しています。犀川は、北方種と南方種の混生域となっています。

●**減少要因**：河川改修による環境悪化や堰堤などの工作物設置による移動制限が考えられます。また、湧水の枯渇や土砂の流出などによる水質汚濁も考えられます。

参考文献 No. 4, 15, 19, 23, 51, 55, 59, 60, 68

**ニッコウイワナ** (サケ目 サケ科)

*Salvelinus leucomaenis pluvius*



生息環境



河川  
ダム湖  
湧水地

安曇野市：準絶滅危惧
NT

長野県：準絶滅危惧	NT
環境省：情報不足	DD

●**特徴**：全長 30～60cm。背びれの後方に脂びれがあります。体色は暗褐色で背部から体側に瞳孔大の白斑点が多数あります。なかには、体側に黄色から淡朱色の斑点をもつ個体もいます。

●**生息環境**：河川上流から源流、冷水の湖や池沼などに生息します。瀬と淵が連続する場所を好み、流れのゆるやかな砂礫底に産卵します。

●**国内の分布**：山梨県富士川及び鳥取県日野川以北に分布します。県内では犀川水系、千曲川水系、姫川水系の上流域に分布します。

●**市内の分布**：主に鳥川、穂高川、乳川、黒沢川などの犀川支流の上流から源流に生息しています。また、犀川本流にも生息しています。野生個体は少なく、放流による個体が多いと考えられます。

●**減少要因**：河川改修、砂防ダムの設置、河畔林の伐採などによる環境悪化が考えられます。また、別亜種の放流による交雑も進行していると考えられます。

参考文献 No. 30, 51, 52, 59

**ヤマメ** (サケ目 サケ科)

*Oncorhynchus masou masou*



生息環境



河川  
ダム湖  
湧水地

安曇野市：準絶滅危惧
NT

長野県：準絶滅危惧	NT
環境省：準絶滅危惧	NT

●**特徴**：全長 30～60cm。背部に小黑点が散在し、体側には小判状斑紋（パーマーク）が並びます。別亜種のアマゴのように体側に朱点はありません。

●**生息環境**：河川の上中流域や冷水の湖や池沼などに生息します。イワナよりもやや下流の場所にみられます。砂礫底に産卵します。

●**国内の分布**：本州（関東・北陸地方以西）と九州に分布します。県内では犀川水系、千曲川水系、姫川水系に分布します。

●**市内の分布**：犀川支流域に生息しています。野生個体は少なく、放流による個体が多くなっています。

●**減少要因**：河川改修、ダムの設置、河畔林の伐採などによる環境悪化が考えられます。また、別亜種のアマゴや遺伝的系統が違う個体の放流にともなう交雑も懸念されます。

参考文献 No. 4, 15, 18, 19, 30, 50, 52, 55, 59, 68

## カジカ (カサゴ目 カジカ科)

*Cottus pollux*



生息環境



川  
湖  
沼  
水田  
湧水地

安曇野市：準絶滅危惧

長野県：準絶滅危惧

NT

NT

環境省：準絶滅危惧

NT

●**特徴**：全長は大きいもので約 15cm。ハゼのような体型でうちわ状の胸びれが目立ちます。体色は全体に暗褐色で、個体により体色に変異がみられる傾向があります。

●**生息環境**：水温の低い河川上中流域などに生息し、瀬の浮石の下に産卵します。

●**国内の分布**：本州から九州の一部に分布します。県内ではほぼ全域に分布します。

●**市内の分布**：犀川、高瀬川、穂高川、烏川、黒沢川など市内の主要な河川に生息しています。穂高の「安曇野市かじかの里公園」では、一時期、人工養殖したカジカを穂高川に放流していました。

●**減少要因**：河川改修、土砂流入による環境悪化、特に砂礫底の減少が考えられます。また、農薬などによる水質の悪化も考えられます。

参考文献 No.

4, 15, 18, 30, 49, 50, 51, 52, 53, 55, 59, 60, 63, 66, 68

## ドジョウ (コイ目 ドジョウ科)

*Misgurnus anguillicaudatus*



生息環境



川  
湖  
沼  
水田  
湧水地

安曇野市：情報不足

長野県：—

—

DD

環境省：情報不足

DD

●**特徴**：全長約 12cm。細長く、5対の口ひげをもち、腹面を除き褐色で不明瞭な斑紋があります。

●**生息環境**：湿地や山麓部・平野部の用水路などの流れがゆるやかな場所に生息し、水田の泥の中に産卵します。

●**国内の分布**：ほぼ日本全国に分布します。県内では山麓部・平野部を中心に広く分布します。

●**市内の分布**：犀川河川敷や市内を流れる細流、用水路に広く生息しています。

●**減少要因**：現在でも市内で普通にみられますが、全国的には放流されたドジョウ（国内外の近縁種、系統）との競争や交雑が懸念されています。

参考文献 No.

4, 15, 19, 51, 52, 53, 55, 59, 60, 66, 68